

リュック流ガーデン講座—2 「色」を楽しむ

日本ガーデン界草分けのペイザジスト(景観設計家)グロッセ・リュックさんの好評ガーデン講座。第2話は「色」についてのお話です。色がよぼす心理的な効果や、美しい組み合わせ方のテクニックを教えてくださいました。



カラフルなフラワーガーデンの歴史は、意外に浅いのです。フランス・ヴィランドリー城の、幾何学模様に入り込まれた刺しゅう花壇。色のついた部分は、以前は色砂が使われていました。19世紀の終わりごろから一年草の品種改良が進み、色とりどりの草花を豊富に植えられるようになってきたのです。

色の効果を考え、目的に合わせて使いこなす

色は、光がなくては見えません。色には光のエネルギーがあります。それが私たちの身体や心に働きかけ、さまざまに作用します。「色」は、人の感情や心地よさを左右する重要な要素のひとつなのです。赤ん坊が最初に識別する色は「緑」だといわれています。森や野原を散歩したり、庭いじりをすると気持ちよくなるのは、この緑という色にも関係してい

るのです。ほかの色にも、それぞれの効果があります。たとえば青は沈静、赤はエネルギー、黄色は喜び……というように。ですから、目的に応じて色を上手に使い分ければ、心を癒したり、落ち着けたり、元気にしたりするガーデンをつくることもできます。



グロッセ・リュック氏

1951年ベルギー、ブリュッセル生まれ。ペイザジスト(景観設計家)。ベルギーのマリモン・エコール・シュペリール造園学科卒業。フランスとベルギーにて造園設計・施工・監理業務から大使館の庭師を経て1987年来日。現在、(有)みどりのゆび取締役設計部長。岩手県と埼玉県を拠点にリュック流ガーデンのデザイン・施工・オブジェデザイン分野で活躍中。著書「ガーデンデザイン」(コスモヒルズ刊)



3色のカラコエを使って、カラフルな水があふれるように演出したガーデン。デザインに動きとストーリー性がある楽しめず。

葉の緑をベースに、宿根草+花木で

それでは、リュック流カラーコーディネーションをご紹介します。

ベースはあくまでも緑です。花の色の美しさは、葉の緑があつてこそ。緑がちょうど「スクリーン」役になって、花の色を引き立てるのです。それに、ひと口に緑といっても、葉の色は千差万別です。華やかな色あいのカラーリーフもありますし、形や質感もそれぞれ違いますから、葉だけでも巧みに組み合わせれば十分に美しいのです。

一面ベタッと一年草の花で埋めるガーデンは、好みではありません。宿根草や花木などを中心に、葉をベースにしたガーデンをつくり、2月はここに花が咲く、3月はここ、というふうに、季節ごとにさく花を楽しむ。そのほうが空間に「動き」が生まれ、変化に富んだガーデンになります。

もちろん、お客様の希望をいれて、部分的に一年

草を植えるスペースを何カ所かつくる場合もあります。その場合も、視覚的な変化を考えて、大きな場所をひとつ取るよりも、なるべく何カ所かに分散させるようにします。そうすれば、その部分だけは季節ごとに一年草を植え替えられますから、その時の好みや気分によって花の色や種類が選べます。こうすることで、お客さまにガーデニングに親しんでもらおうという狙いもあります。

私がつくる宿根草と花木がベースのガーデンは、花期が一定時期に限られず、剪定にある程度の技術を要するものがありますので、私は基本的に、お客様のご要望があれば、庭が完成したあとも定期的に管理をします。庭というのは成長するもので、つくりっぱなしではいい庭にはなりませんから。ただ日本では、メンテナンスにお金を出す発想がなかなか残念です。庭は、完成してからが本当の始まりなのに…。



園芸療法の行われているガーデン。300種以上の植物が植えられています。オレンジ~黄色といった暖色系の花々と、あふれる緑のなかで過ごす、心身が癒され、明るくリラックスした気分になれます。

色を組み合わせるテクニック

先ほど「色が人間にさまざまな効果をおよぼす」ということにふれましたが、それを実際にガーデンに応用してみましょう。

たとえば、狭い庭を広く見せるなら、奥行きを感じさせる青い花を多くします。逆に赤い色を使うと狭苦しく感じてしまいます。黄色は弱視の人にも見える色なので、視力の弱い人やお年寄りには黄色系の花を使って楽しんでもらいましょう。夕暮れ後は赤い色は見えにくいので、日中留守がちの人の庭は黄色や白い花を多くするとよいでしょう。

色の組み合わせ方も、いろいろなテクニックがあります。強い色同士を組み合わせるときは、間に白い花をはさむとやさしいイメージになり、まとまりやす

くなります。狭い庭には、さまざまな色を混ぜ込んでもいいのですが、広い庭では単色をある程度のかたまりで使っていけないと、全体がぼけてしまう場合があります。また時には、塀や花台、ゲートなどに思いきったアクセントカラーを用いると、植物の色がさらに引き立ち、コントラストのある庭が完成します。

いずれにしろ、ただ一年草を植えて、季節がすぎたら植え替える、というカラーコーディネートではなく、さまざまな葉の色をベースに、宿根草、花木、球根を自然に取り込んだなかで色彩計画をするのが、「リュック流ガーデン」なのです。



いろいろな色・形状の葉を組み合わせたガーデン。白や銀色の葉をあしらうことで、涼しげで爽やかなイメージに。



明るいイエローの花が咲き乱れるガーデン。弱視の方がここを訪れたとき、「黄色が気持ちいい」ととても喜んだとのこと。



カラーリーフを組み合わせ暖色系にコーディネートしたガーデン。そこに寒色系のブルーをあしらうことでコントラストが生じ、植物の色がさらに鮮やかに際立っています。塀や花台、ゲートなどに、こういう思いきった色をアクセントとして用いるのがリュック流。